

【昭和大学】

5年の春休みの3月28日と29日に昭和大学リハ医学講座を見学させていただきました。印象に残っているのはリハの理念・概念を大切に考えられていることと、在宅医療の推進に積極的な点でした。前者についてはリハの理念・概念の丁寧な説明があり、自分の大学にはリハ医学講座がなくそうした内容を教わる機会の少ない自分には大変新鮮に感じられました。説明の中でFIM（機能的自立度評価法）の改善点数と満足度が相関しないという調査を紹介して頂き、医療やリハの目的などについての自分のこれまでの考えを変える必要があると感じました。また後者については医局の医師の多くが在宅医療にかかわっているということや医師も家屋調査を行うというお話に在宅医療への積極性を感じました。また家屋評価に同行させていただいたことは大変よい経験になりました。そのほかにも外来診療で小児リハの現場を見学し、また脳性まひ患者の抱える問題と手術についてレクチャーいただきました。この話題についてはご紹介頂いた本を拝見し、深刻な現状を垣間見ることができました。また音楽療法について紹介して頂き、患者の自発性を引き出す試みとして大変興味深く感じました。またリハ医の日常業務を丁寧な説明を交えて見学させていただいたことはリハ医として働くということの具体的なイメージをつかむ助けとなりました。自分の大学にはリハ医学講座がなくリハ医にお会いする機会が少ないので貴重な機会となりました。どうもありがとうございました。

【多摩北部医療センター】

私がこのセミナーに参加した動機は将来の専門としてリハ科に興味があったからです。大学のBSLはリハ科が1週間と短く、大学病院と一般病院では違いがあるのではないかと思います。多摩北部医療センターの医学生セミナーに申し込みました。今回はGW中だったため外来や検査はありませんでしたが、入院患者さんの回診やリハに参加させていただきました。動けない患者さんに訓練をしたり痛みを取ったりと治療するのはもちろんのこと、障害を抱えている(治らない)患者さんが今後どのように社会復帰していくか、などを患者さん個人個人のバックグラウンドを考慮しながら丁寧に考えていく様子を見て、いいな、私も将来このような仕事がしたいな、と感じました。大学病院との違いについては、どちらも急性期の患者さんを中心にみていることもあり、あまり感じませんでした。先生方とも色々なお話をさせていただき、リハ科の医師がどのような仕事をしているのか、少しですが分かってきました。また同時にリハの奥深さも感じました。これからもリハのことを勉強して、もっと知りたいと思いました。2日間、大変貴重な経験ができました。休日にも関わらず快く受け入れて下さりありがとうございました。

【藤田保健衛生大学病院，七栗サナトリウム】

医学生：

- 専門的な話が聞けたことがよかったです。リハ医に興味がわきました。リハに触れられるだけで楽しいです。
- リハ医についてよく知ることができ、貴重な機会を頂きました。
- リハロボットに元々興味があり、実際体験もさせて頂いて、より興味が増しました。ディスカッションでは、今まで知る機会のなかったリハ医について知ることができ、理解が深まったので面白く感

しました。三重ではあまりリハについて学ぶ機会が無かったので、とても貴重な経験になったと思います。ロボットの開発についての話も、実際に患者が使用するところまで考えて行われていることが分かり、感銘を受けました。

●6年にもなって神経所見をとることがスムーズにできず、勉強が足りないことを痛感できました。リズム療法の理論背景など知りたかったです。運動学や高次脳機能障害のレクチャーも受けたかったです。リハ医に関心がありましたが、リハ医の存在意義についてうまく理解できていませんでした。今回の経験とディスカッションでいくらか理解を進めることができました。だいたい進路はリハビリ医学で固まりました。

●失礼ながら、ポリクリの延長程度の気持ちでの参加でしたが、それ以上のものを見せて頂けたし、体験させて頂けました。また、座学では暗記するしかできなかったことも実際に体験することで身をもって覚えることができました。

●リハ医としての専門性を理解できてよかったです。リハ＝筋・関節を動かすというイメージが強かったのですが、呼吸リハ、嚥下訓練など他のリハの分野があることが分かりました。患者の「動」「生活」をみるという視点が看護に近くて（現在、看護師で医学生のため）、理解しやすかったです。

●リハは何かという授業を受けたことがなかったので、まずオリエンテーションで説明をして頂けてよかったです。治療体験は実際にやってみて楽しみながら、こういうのがあるのかと思えました。初めてリハの現場を見て、とても新鮮だったし、説明をして頂けたので分かりやすかったです。患者のお話を聞いたことがとてもよかったです。患者がリハによって自分でできることが増えて、仕事のやる気もできたというお話をしている、リハ科の先生は病気と付き合っていく患者にモチベーションを保たせることができ、魅力的な仕事だなと思いました。リハについて何も知らない学生でも楽しめる2日間でした。

●グループワークで考えてみて、初めて難しさやリハ医教育の重要性が分かりました。グループワークが楽しく、このようにもっと自分達で考える、考えさせる場があったらよいなと思いました。急性期での考え方や流れはよく分かりましたが、回復期での内容がよく分からず、不完全燃焼でした。医療経済、経営も興味があるので、金銭面からの切り口がおもしろかったです。実際に患者の話を聞ける機会はめったにないと思うので、このような場がありうれしかったです。先生方がよく計画して下さいだったので1日で十分楽しむことができました。本当に、先生方は教育に力を入れているのだなと体感できました。

●授業で聞いた内容を実際に体験でき、患者のリハの様子を見られてよかったです。大変勉強になりました。リハ医学に興味を持ちました。もっと多くの診察を見たかったです。診察からリハ計画、説明まで一連の流れをつかむことができましたが、体験したかったです。リハ医がチームで指示している場も体験したかったです。リハの検査を全て体験したいと思いました。また機会がありましたら参加したいと思います。

研修医：

●ワークショップ形式でしっかりと考えることができたのがよかったです。運動学と診察が勉強になりました。患者、コメディカルの方の話を聞くことができ、大変ありがたかったです。他の内容も全て面白かったです。コメディカルの方から見たリハ医の姿、理想像、求めているものなど教えて頂けたらありがたいです。ベットサイドでできる簡単なリハや診察、評価、訓練処方の流れについて知りました。

●回復期リハ病院から退院された患者の話聞く機会を持てたことが有意義な経験でした。他科では退院したら、そこで診察は終了しますが、リハ科は患者の生涯にわたって付き合うことができる唯一とっていい科でもありますので、その特徴を2日間と短い期間ながら最大限に経験できたと思います。

●介助者体験実習ではコツさせつかめば女性が男性をベットに移すことができるというのは、1番のツボでした。嚥下内視鏡実習は生まれて初めて行いました、非常に貴重な体験でした。とろみ付きの食事は初めて食べました。回復期リハの話を実際に聞けるためになりました。やはり自分で体験するのはおもしろかったです。療法士インタビューや排泄機能検査が見てみたいです。2日間来てよかったです。リハ医の実情も少し分かるようになりました。もっと勉強したいという気になりました。

●装具やリハロボットに関しては他の科で見ることがないので、貴重な体験ができました。嚥下障害の治療に関しては、普段の診察でリハ科に依頼することはあっても、自分で詳しくみる機会がなかったので、勉強になりました。リハのプラン立てをグループワークで色々な意見を出しあってリアルタイムに体験することができました。リハ医と療法士との治療方針の決め方など具体的にどうやって決めていくのか見てみたかったです。療法士の生の声をもっと聞く機会が欲しいと思いました。これまでリハ科の先生方に依頼するだけだったので、詳しい内容を理解できて、大変勉強になりました。またディスカッションで自分の興味のある分野について率直な意見が聞けて参考になりました。学生、研修医、ベテランの先生と様々な状況の方々とセミナーを体験することができて、それぞれの視点での意見が聞けてよかったです。

医師：

●普段何気なく使用している装具もこだわりを持って使うと違うことを知られて良かったです。リハロボットは最新のリハで面白かったのですが、最先端すぎて実感がわきづらかったです。回復期リハのセミナー内容でまた参加したいです。

●リハ医の診察を直接見せて頂く機会は初めてでした。今更誰にも聞けないことばかりで本当に助かりました。排泄機能検査、病棟での食事介助の様子を見せて頂ける機会があるといいと思いました。システムや装具、環境など何度来ても新たな発見があります。学生や研修医の方々の率直な質問や意見を聞くことができたので、今後の学生指導に役立てられると思い、参考にさせて頂きました。看護師とも話ができてかなり色々なアイデアが浮かび、少し先が明るくなりました。日常業務を行う上で、ちょっとした工夫で取り入れられそうなこと、すぐには無理ですが、将来的にこうした方がいいなと思うアイデアが豊富につまったセミナーでした。医学生セミナーという名称ですが、私程の年代でもとても参考になることが多く、むしろこの年代になると誰にも教えてもらえなかった、多職種の方に遠慮されていることが多いと思うので、こういったセミナーが役立つと思いました。

【鹿教湯三才山リハビリテーションセンター】

私は、2013年4月29日から同年5月3日までの間、リハ科の実習をさせていただきました。診療科決定に際し専門的なリハ医学の見学をしたいと思い、実習をお願いしました。実習の内容は主に、回復期リハ病院における専門治療と、長野県の地域医療についてでした。専門的な治療については、TMS、TESやボトックス治療についてクルズスをいただき、実際に患者さんに施行するところを見学させていただきました。私は今回実習させていただくまで、上記のようなリハ専門医としての治療については

何も知らなかったため、大変興味深く思い、これらの治療法はもっとメジャーになるべきだと思いました。また、とてもたくさんのセラピストたちによる 365 日体制の手厚いリハを見せていただいたことはとても感動いたしました。それと同時に、たとえ急性期病院に勤める医師であっても、回復期専門病院について予めもっと学び、すべての医師が患者さんの転院後、退院後のことを見越して治療にあたるべきだと強く思いました。他にも、ST、臨床心理の見学や、進路相談までさせていただきました。次に、長野県の地域医療についてですが、県内のさまざまな病院間が連携を取り合っているため患者さんの発症後から帰宅までの道筋が整っていることを学びました。さらに、セラピストによる訪問リハビリにも同行させていただき、退院後患者さんたちがどのように生活を送っていくのか、医療従事者はどうやってサポートしていくのかを見ることができました。私は上田市出身ですが、地元で「鹿教湯三才山リハビリテーションセンターに入院して帰ってくると、発症前より元気になって帰ってくる」という話を聞きました。私は今回の実習で、患者さんの充実した入院生活をみることができ、この話に関して大変納得いたしました。自分の大学にいても決して学ぶことのできなかつたことを多く学ばせていただき、今回の実習は私にとって大変実になるものでした。ご多忙の中、私一人のためにわざわざ時間を割いてくださり、見学内容の希望にもこたえてくださった先生方や職員の皆様方にとっても感謝しております。

【新吉塚病院】

この度の実習では、普段、大学の講義や実習では勉強する機会が少ないリハについて詳しく教えていただき大変貴重な経験をさせていただきました。特に日頃疑問に思っていた感覚障害のリハの方法等も教えていただき、大変勉強になりました。また、主治医と患者様が笑顔で親しくお話しをされている場面を幾度も目にし、主治医が患者様から非常に信頼されていると感じました。私も患者様に信頼される医師になれるよう、今回の実習で学んだ事や感じたことを今後の活かしながら頑張ろうと思いません。